

### 新潟県知事選挙

# 投票日は10月25日(日)です

## 大切な一票、棄権することなく投票しましょう。

#### ●選挙権のある人

昭和四十七年十月二十六日以前に生まれた人で、平成四年七月四日以前から月潟村に住所登録がしてあって、引き続き月潟村に住んでいる人。

なお、平成四年七月五日以降、県内の市町村に転出した場合は、新住所地の市町村長の証明書を持参提出すれば月潟村で投票できます。

#### ●投票所

投票区	投票所
第一区	大別当集落開発センター
第二区	月潟村農村環境改善センター
第三区	曲通多目的共同利用施設
第四区	西公民館
第五区	木滑多目的共同利用施設

※ 今回の選挙から第二区投票所が「月潟中学校」から「月潟村農村環境改善センター」に変更になりますので、ご注意ください。

#### ●投票できる時間

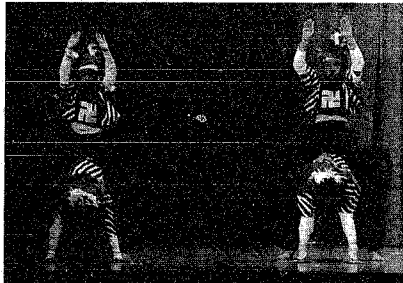
午前七時から午後六時までです。

### 観光キャンペーン 400人を集め大盛況

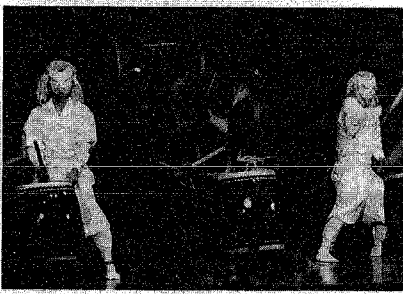
#### 角兵衛獅子の舞い

九月二十三日(秋分の日)月潟村農村環境改善センターで、第十一回観光キャンペーン「角兵衛獅子の舞い」が行われ、「ふる里再発見の旅・越後・中ノ口河畔観光ツアー」の団体客をはじめ、村内外から四〇〇人を超える観客が集まり大盛況の一日となりました。

このキャンペーンは、月潟村の観光・物産を広く紹介し地域の活性化を図る目的で毎年行われています。会場では、午後二時から「月潟太鼓」「角兵衛獅子の舞い」が披露される一方、物産品の展示即売として、手づくり銘菓類・月潟手打ち鎌・味七ヶ梨・角兵衛人形・味噌漬などが販売され、売り切れとなるほどでした。



▶獅子の舞



▶月潟太鼓「白狐」

#### 「角兵衛獅子を撮る」 第五回 月潟まつり

#### フォトコンテスト

#### 結果発表

- 推薦 伊東 周平(三条市)  
特選 高津 博(新潟市)  
特選 鈴木 謙治(新潟市)  
入選 山際 仁作(新潟市)  
皆川 利行(月潟村)  
直井 正吉(茨城県)  
渡辺 綱雄(新潟市)  
高津 博(新潟市)  
今井 保雄(村松町)  
江口 昭平(燕市)  
本間忠三郎(中之口村)  
笹川 正義(味方村)
- ◎作品は、十一月一日「月潟村総合文化祭・産業まつり(中学校体育館)」に展示します。

#### 「原付講習」の

#### 法制化について

道路交通法の一部改正により、原付技能講習が「原付講習」として平成四年十一月一日から法制化されます。

原付免許試験を受験される方は、住居地の交通安全協会が実施する「原付講習」を事前に受けてください。

また、講習手数料として、三、九〇〇円(新潟県収入証紙)が必要となります。

※事前に講習を受けていない方は、試験に合格しても免許証の即日交付は受けられません。

●運転免許センターでの講習は一切実施しません。



来年もお待ちしてあります。



「常付講習」

なお、不明な点は、最寄りの警察署、地区交通安全協会にお問合せください。

#### ●不在者投票

選挙当日、仕事や旅行、入院のため投票所に来て投票ができない場合、五日から十四日まで不在者投票ができます。土曜、日曜にかかわらず、午前八時三十分から午後五時まで役場相談室で行っていますので印鑑持参のうえおいで下さい。入院中の方は、病院で不在者投票ができますので院長に申し出てください。

また、身体障害者手帳又は戦傷病者手帳の交付を受けている人で、「郵便投票証明書」をお持ちの人は、郵便による不在者投票ができます。

(ただし、投票用紙等の請求は二十一日までです。)

「郵便投票証明書」の交付を受けたい方は、お早めに選挙管理委員会に申請して下さい。

#### ●開票

選挙当日、午後七時から役場二階で行います。会場の都合上、参観人の数を三十人に制限いたしますのでご了承ください。

詳しいことは、月潟村選挙管理委員会にお問い合わせください。

# みんなそろって投票しましょう



うまが合う

秋空が高く澄み切ったさわやかな季節を、候文の手紙などで「天高く馬肥ゆる候」と表現しました。これは中国唐代の詩人杜審言が、出征する友人に贈った詩の一節「秋高くて塞馬肥ゆ」からきた成句です。

秋がくると、騎馬民族の匈奴が辺境の塞に体重の増した元気な馬を集めて、侵攻の機を狙っていたのです。しかし、地続きの国境がないわが国では、肥えた馬といえど食欲が進む秋季のシンボルとされてきました。

うま(uma)、むま(uma)という日本語は、馬自体が大陸から伝わりともに入ってきた中国語の馬(馬)によるものと考えられます。それ以来、馬と日本人の深いかわり方を示す言葉も少なくありません。

「うまが合う」は、馬と乗り手の呼吸がぴったりなところから、気が合う、意気投合するの意。「噛む馬にも合い口」は、どんな人にも気の合う相手がいることをいったものです。また、「馬は馬連れ」は、うまの合う人が一緒に行動すればうまくいくたとえに使われてきました。